

being（認知症介護指導者東京ネットワーク）

【活動目的】

認知症介護指導者の連携を深めると共に、認知症の方が尊厳をもって暮らせる社会の創造を目指す。

【活動内容】

1 会員相互の情報・意見交流、継続した自己研鑽 支援 2 認知症介護に関する学識や技能の蓄積と会員及び関係者への還元 3 認知症介護実践研修の修了生や認知症介護に携わる人の人材育成と認知症介護を継続的に支援 4 家族や地域住民が互いに相談や援助しあえる環境づくり 5 地域社会の認知症についての理解促進 6 全国の認知症介護の質向上のために指導者の役割を明確化と地位の確立 7 東京センターや他の関係機関と連携を図る

活動の経過と成果

【活動の経過】

ちネット、大府ネットに続き、東京センター管轄の指導者によって設立された。指導者の連携を深めるとともに、認知症の方が尊厳をもって暮らせる社会の創造を目指すことを目的として組織化した。総会研修及びブロック研修会の開催、指導者の相互交流支援、会報の発行などの他に、実践者研修のカリキュラムを共有し講義の平準化を行う場としても活用されている。

【活動の成果】

他ネットワークと同様に、研修会の開催等で指導者間での自主フォローアップに努め、会報・メール等で情報の共有を図っている。さらにbeingの管轄内ではこの数年自然災害が発生しており、被災した会員及び認知症ケア現場等への災害支援活動も行っている。全国ネットワークとの協同での活動やbeing単体の災害支援活動など会員及び地域会員組織の災害支援活動をサポートしている。



直近の令和2年7月の熊本豪雨の被災地支援として、発災当初の初動活動を担う会員の支援をするるとに、認知症の方の支援及び避難所の方々への支援として地元の他団体との連携で「ホットカフェだんだん」と称し集いの場を作った。またbeing九州ブロックとの協同で「よろず相談」として認知症ケアの相談窓口を設け、それらの活動の一助になるようにとbeing関東ブロック会員が中心となり活動支援金を集う活動を実践するなど、できることをできる指導者で取り組み、R3年3月現在も災害支援活動は継続されている。この災害支援活動は被災地の認知症介護指導者会が中心となりコーディネートしbeingのみならず地元の他専門職団体や家族会・自治体等と連携しながら実践している。

beingの管轄は関東・新潟エリアと九州・沖縄エリアがある。研修を通じて知り合った仲間の危機をわがごとくのように捉え、遠く本州からも、周りを巻き込み物資を集め、直接届けたり救助活動に駆け付けた。

復旧・復興への道のりは長く心折れる時もあったが、そんな時に遠くの仲間からの手紙付き支援物資が届くことで、人と人とのつながりを感じ力づけられ継続できたところにネットワークの意義を感じている。



今後の展望

全国ネットワークでは以前、行為規範として「求められる指導者像」を策定しており、認知症介護指導者の倫理綱領など言語化などを検討したい。

また、このコロナ禍の認知症介護現場での実践経験や熊本の地震や水害の災害支援活動の体験などを知見として積み上がるように取り組む必要もある。認知症の人の望む暮らし実現を目指し当事者及び家族そして認知症介護実践者のために認知症介護指導者の力が最大限に活かせるようbeingとし応援できる体制を整えたい。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書（令和2年度老人保健健康増進等事業）」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。